

# 緊急災害対策派遣隊 (TEC - FORCE) の創設

## - Technical Emergency Control Force -

地震、水害・土砂災害等から国民の生命と財産を守ることは国の基本的責務  
地球温暖化等による災害リスクの増大に対し、  
人員・機材の派遣体制等の充実を図り、危機管理体制を強化

**課題** ・これまでの国による緊急支援はその都度体制をとって対応

**そこで** ・あらかじめ職員をTEC - FORCE隊員として指名するなど、  
事前に人員・資機材の派遣体制を整備し、迅速な活動を実施  
・平時にシミュレーション、訓練を行うことによりスキルアップ

被災状況の迅速な把握  
社会基盤施設の早期復旧  
二次災害の防止  
その他災害応急対策

### 活動内容

全国の地方整備局職員等が国土交通本省の総合調整により活動  
主体的に緊急調査を実施  
関係機関と連携して必要な緊急応急対策を実施

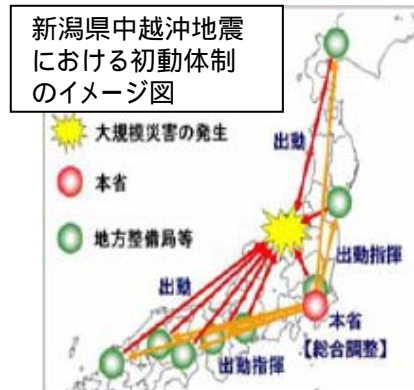
事前に人員・資機材の派遣、受け入れ体制を整備  
被害状況調査  
災害危険度予測  
対策の企画立案  
技術レベルの充実・強化のための検討等  
応急対策等



発足式  
(H20年6月関東地整)



災害対策用ヘリコプター



排水ポンプ車

# TEC - FORCEの対象とする災害

TEC - FORCEの対象とする災害は、被災地域の地方公共団体等が十分な災害対応を講じることが困難な大規模自然災害を想定しています。

## 地震



例えば、二次災害の危険回避のための技術力や、応急対策資機材の集中投入等を要する地震(平成7年兵庫県南部地震 阪神高速倒壊)

## 火山災害



例えば、火山活動の観測・予知、火砕流等の危険区域予測等の技術力を要する火山災害(平成5年雲仙・普賢岳)

## 風水害



例えば、破堤により大規模浸水が発生し、応急仮締切や迅速な排水等を要する災害(平成16年新潟・福島豪雨 新潟県三条市)

## 雪害



例えば、孤立集落対策への支援や雪崩災害防止等を要する雪害(平成18年 新潟県津南町、長野県栄村)

# TEC - FORCEの活動内容(宮城・岩手内陸地震)

## 先遣班及び被災状況調査班(ヘリ調査)

地震発生直後より、ヘリコプターからの調査を実施。大規模な土砂崩れによる河道閉塞や道路通行止め等が多発している被害の全体像を、早期に把握できた。

派遣実績：延べ40人・日 (7月10日まで)

荒砥沢ダム貯水池 (宮城県栗原市)



災害対策ヘリ

国道342号 (岩手県一関市)



## 被災状況調査班(道路)

被害状況の調査や復旧方法等に関する技術的支援を実施

派遣実績：延べ233人・日 (7月10日まで)



## 応急対策班

遠隔操縦式油圧ショベル、照明車、排水ポンプ車等により、道路埋塞土砂撤去、河道閉塞仮水路掘削、排水、夜間監視・夜間作業の支援等を実施

派遣実績：延べ433台・日 (7月10日まで)



遠隔操縦式油圧ショベル



排水ポンプ車



照明車

## 高度技術指導班(河道閉塞)

河道閉塞箇所を調査し、緊急対策や二次災害防止のため監視体制を立案・指導

派遣実績：延べ87人・日 (7月10日まで)



河道閉塞 (一関市 市野々原地区2)

磐井川市野々地区(岩手県一関市) 河道閉塞箇所の緊急対策実施状況  
(直轄砂防災害関連緊急事業にて実施)